

慶應義塾大学大学院 文学研究科 後期博士課程

史学専攻 西洋史学分野

3つのポリシー

【ディプロマ・ポリシー】

史学専攻西洋史学分野では、課程修了時に学生が身につけるべき能力として以下のものを定め、学則に従って修了要件を満たし、博士論文審査に合格した学生についてはこの能力を身につけた者と認め、博士（史学）の学位を与える。

1. 西洋史学分野において定められた博士論文執筆資格を満たした上で、西洋史学研究、あるいは関連分野の研究を内容として博士論文を執筆し、定められた手続きに則った審査に合格し、その論文を通じて、当該領域の研究に独創的な寄与を成し、その分野の研究の発展に大きく貢献できる。
2. 研究対象とする分野について、最新の研究動向や研究課題に精通し、包括的で深い専門知識を有し、専門的研究方法論を習得し、日本語さらには英語や自己の研究分野に関連の深い外国語で国際的に成果を発信してその分野の研究に独自の貢献ができる。
3. 英語をはじめとして西洋史学の各専門分野で必要とされる外国語を通じて西洋世界をはじめとして異文化の文化的、歴史的、地理的特性を深く理解し、他者との交流を通じて課題を発見し、それを解決していくための議論や実践に資する高度な研究能力、プレゼンテーション能力を身につけていることで、高度な異文化リテラシーを備えた社会人、研究者、教育者として国際社会への発展に独自の貢献ができる。

【カリキュラム・ポリシー】

史学専攻西洋史学分野では、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として以下のカリキュラムを編成する。

1. 西洋史学、あるいは関連分野の領域の研究に独創的な貢献をする博士論文の執筆を可能とするため、指導教員が担当する特殊研究科目を中心に科目を履修するとともに、指導教員が中心となって個別論文指導を行い、高度な研究能力と課題発見能力、高度な論述力を養う。西洋史学専攻においては、論文提出までに専攻が定める博士論文執筆資格を満たしている必要がある。
2. 専門とする領域において最新の研究動向や研究課題に精通し、専門的研究を通じて学会への独自の貢献をするために必要な高度な研究能力、課題発見能力、一次史料

分析能力、議論構成力を養成するため、日本語ならびに英語の他、西洋史学の各専門分野で必要とされる外国語および古典語に係る特殊研究科目を設置する。研究成果を学会や専門誌で発表することを目的として具体的な指導を行う。

3. 個別の専門的研究を国際的かつ独創的に展開し、高度な異文化リテラシーを身につけることを補助するために、文学研究科による留学制度、慶應義塾大学国際センターを通じて交換留学、さらに学内外の各種留学制度などを活用した、海外の大学院への博士学位取得を目的とした長期留学、単位取得や専門的なディプロマ取得を目的とした短期留学を推奨する。

【アドミッション・ポリシー】

史学専攻西洋史学分野後期博士課程では、次のような資質を持つ学生を求めている。

1. 自分の研究領域および関連分野について、高度な専門的知識を持ち、専門的研究方法論を習得している。
2. 修士課程における専門的研究をふまえて、博士論文につながる独創性のある具体的な研究計画を自ら考え、日本語、さらには英語や自己の研究分野に関連の深い外国語でまとめることができる。
3. 自己の研究テーマに係る一次史料および二次資料を正確かつ批判的に読むことができる外国語や古典語の能力を有しており、分析的な読解、独創的な学術的議論を展開できる。
4. 少なくとも研究資料を講読するに十分な第2外国語の能力を有している。
5. 博士課程修了後の社会人、研究者、教育者としてのキャリアについて、積極的かつ具体的に考えている。